熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	新潮（小詩會詠草）　：和歌　：文苑
Author(s)	杭子；芒村；卯の花；ゆふ闇
Citation	龍南會雑誌，１０４：４０-４１
Issue date	1904-02-20
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/5658
Right	

Kumamoto University

野に立つ人よさらばいざ
罪のはだしを今さけて
陽炎もゆるみぞり野に

讃美の歌を唱へずや
佐保姫神のみ姿の
あゝまた雲にたゞようを。

和歌

新潮（小詩會詠草）

杭子

○

新潮の遠きひびきに海底の春を夢みるいその貝がら
戸にせまる小雨そぞろにさむき朝春の音たてしわかき鶯
世を知らぬわかき鶯はぢらひて梅をこひよるもやのあけぼの
わか草の春の流れの音ずれにゆめのゆらぎや野べの陽炎
爐に近く梅をうつして京へやる文かく宵を雨まどをうつ

芒村

○

人の世の夢ひゐはてゝ大空の星かげ清しれくづきどころ
杜影のはこらをもるゝ月かげにねむれる鳩の和毛ひゐたり
草かれてかなしさみつる冬の原夕日しばしのはゐとどめずや
雲ひくゝ空にまよひて野の末の伏屋の軒に夕日かがやく

東にそびゆる阿蘇の夕けぶり夢のみ國にかつうすれゆく

○　卯の花

香に醉うて蝶の羽ぞらもひら〳〵とかくてわが夢雲に入りぬる

夕榮の黄金の雲をこゑゆきて不死のうまざけ得しと夢みしたゞならぬ雲のゆきゝや筑紫潟君すむかたをわれ立のぞむ

頰やせて濃き息白き其の中に迷ひの生命(いのち)狂ひの血しほ吹きすさぶ吹雪の中の枯木立鳥なき渡る夕ぐれの野べ

○　ゆふ闇

あや雲に歌のひじりを讃じ得て森にまた入る默想のわれ

いづくよりうれひを曳かむ天地にみなぎりわたる春の日のかげ

われとわが胸のさゝやき興がりてひそかにひとり野をゆきかへる

いざよひの月いまいでゝ野の草をほのかにわたるうつくしき影

弱くともわれにしらべのなからずや胸なる浪をたれかうかゞふ